

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成24年8月9日(2012.8.9)

【公開番号】特開2011-75304(P2011-75304A)

【公開日】平成23年4月14日(2011.4.14)

【年通号数】公開・登録公報2011-015

【出願番号】特願2009-224442(P2009-224442)

【国際特許分類】

G 01 J 3/46 (2006.01)

H 04 N 1/46 (2006.01)

H 04 N 1/60 (2006.01)

G 06 T 1/00 (2006.01)

B 41 J 2/525 (2006.01)

【F I】

G 01 J 3/46 Z

H 04 N 1/46 Z

H 04 N 1/40 D

G 06 T 1/00 5 1 0

B 41 J 3/00 B

【手続補正書】

【提出日】平成24年6月22日(2012.6.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0077

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0077】

ブルダウンメニュー136の左方部には、「光源」なる文字列が表示されている。マウス32の所定の操作により、図6Dに示すように、ブルダウンメニュー136の下方部に選択欄152が併せて表示され、その右側にスクロールバー154が設けられている。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0086

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0086】

この画像評価の結果、保護膜付印刷物42の画像の色が適切でないと判断された場合は、プロファイルの変更を行うことにより色の微調整を行う(ステップS7)。この具体的方法としては、プロファイルの再設定・再生成や、プロファイルの微調整(現在設定されているプロファイルの補正)等が挙げられる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0121

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0121】

ラミネートフィルム40の光学物性値であって、且つ、未知の変数であるR(固有反射率)及びSx(散乱係数)を実験的に推定する方法を具体的に説明する。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0141

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0141】

なお、Saundersの補正式等を用いて、実測された分光反射率 R_n を補正した上で、Kubelka-Munk モデルを適用してもよい(“Calculation of the color of pigmented plastics”, JOURNAL OF THE OPTICAL SOCIETY OF AMERICA, VOLUME 32, PP, 727-736, 1942 参照)。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0145

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0145】

この補正により、ラミネートフィルム40と外部との界面における光反射がさらに考慮されるので、保護膜付印刷物42の分光反射率をさらに高精度に予測できる。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0150

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0150】

図11は、図10Bに示す各光学物性値の推定値に基づいて得られた保護膜付印刷物42の測色値(予測値)と、その現物の実測値との比較を表す説明図である。図11のグラフは、 $L^* a^* b^*$ 空間における $a^* b^*$ 平面(すなわち、横軸は a^* 、縦軸は b^* である二次元座標系)を表す。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0157

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0157】

設定画面200は、座標表示欄202と、マウスポインタ204と、2つのテキストボックス206、208と、ゲージ210と、スライダ212と、1つのテキストボックス214と、グラフ216と、3つのボタン218、220、222とから基本的に構成される。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0161

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0161】

グラフ216の下方部に設けられた[OK]ボタン218を押下すると調整値の設定が保存され、[中止]ボタン222を押下すると設定画面200が閉じられて設定作業が終了する。